



『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 国際交流学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づき、次のような力を身につけた卒業生を社会に送り出します。

所定の単位を取得することはもちろんですが、そのうえで国際交流のカリキュラムに沿った学びによって、高い言語コミュニケーション能力を有し、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分自身のことばで自分の意見を発信する力と広い視野から国際貢献および異文化理解を実践しうる能力を身につけたと認められる学生に学位を授与します。

実践的な能力を身につけることはもちろん重要ですが、本学科では、なによりもその中心に「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛する」という精神があつてこそその国際貢献および異文化理解であることを、常に学生たちに強調しております。単に能力を身につけるだけではなく、建学の精神を体得した学生を育てることに大きな比重を置いています。

2. 国際交流学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

国際交流学科では、その理念に基づいて、幅広く深い教養を身につけるためのリベラル・アーツ教育を重んじながら専門教育を施し、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、以下のような方針でカリキュラムを編成しています。

国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の授業科目を履修し、各コースの必修授業、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。とくにカリキュラムの中心に据えられる演習は両コースとも少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。4年次には学科およびコースで深めた学問の集大成として、両コースとも全員が卒業論文を作成します。

このように専門性を深める一方で、所属するコース・学科以外の授業科目を関連分野の科目として履修したり、総合現代教養科目を履修したりすることで、専攻分野だけに限定されることなく、現代人として世界を理解し、積極的に社会に関わるための視野を広げます。

本学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えるカリキュラムを組んでいます。両コースのコアとなる部分、および共通する部分

は以下のようになりますが、不足する部分においては外部講師の講演等で補うようにしています。

グローバル社会コースでは、国際貢献能力を開発する「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、ネイティブによる実践的英語演習、ICT活用、国内外での社会・地域連携を体験するアクティブラーニングを通じて、グローバルマインド、グローバルスキル、協働力を養います。多様性に富むグローバル社会を理解するために必要な知識と実践は、2・3・4年次生を対象とする豊富な専門科目によって身につけます。歴史・制度・理論・現状・課題などを、国際政治、国際経済、国際法、国際協力の柱を中心に、一人一人の志向に沿った自由度の高いティラーメイド型の科目選択方式で、多角的に学びます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に英語(必修)とフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語(ひとつを選ぶ選択必修)のコミュニケーション科目からなる「言語コミュニケーション」を履修し、実践的な語学コミュニケーション能力を身に付け、「留学プロジェクト1」および「海外異文化研究」を履修して海外での学びに向けた準備を行います。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識と実践は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディ領域」の3領域の専門科目を体系的に学び、広い視野と柔軟な思考力を養います。両コースとも、3年次から4年次にかけて演習科目を履修することにより、より深い専門的な研究を行います。そして、多様な情報の整理、問題に対する多角的な考察および論理的な分析を通して卒業論文に接続していきます。

3. 国際交流学科の進学生・編入学生の受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。

本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。

本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたい、と考える学生を望んでいます。そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

2017年3月31日更新

2018年7月23日更新